

# グリーンだよりで地震被害に遭遇!

## 第3回シリーズ高層住宅における地震時の被害想定訓練

さて、マンションにお住まいのあなた! もしも、地震が起きた場合、あなたの生活はこうなるかもしれません! まずは被災時の生活を維持する上で重要な要素をイメージするために一定の条件のもとで想定をしたものです。なお、ここで想定している復旧の日時、順序などはあくまでも仮想であり、この通りに進むものではありませんのでご了承ください。

### 【前回のあらすじ】

Aさん宅(30代の会社員・専業主婦の夫婦、中学生と小学生の4人家族、8階居住)

12月10日(木)19時、加古川市北部の山崎断層帯主部を震源地とするM7.7の地震が発生。加古川市中心部では震度6弱を観測した。地震の揺れによってライフラインがストップした。家族との連絡も取れていない。ラジオで情報を収集しながらも不安が募る。

## 地震発生から2日目のシナリオ~

### 12月11日(金)

#### 1. 防災会等の活動開始

防災会の対策本部の活動が本格化し、各棟のエントランスに棟連絡支部が立ち上げられている。本部と棟支部の連絡や行政側からの連絡を受け持つ通報情報記録班。軽い怪我や、体調の悪い人を手当てする救出救護班。消火班と避難誘導班は初期消火に備える。給食給水班は防災井戸水の管理や炊き出しに備えて準備をする。警備班は警察や行政との連絡を担い、住民全体で治安を守る啓発を行うようだ。私たちが役割りが分担されているので可能な限りお手伝いしていくことにしよう。



#### 2. 要援護者支援

あらかじめリストアップされている、ひと声かけて登録者をもとに、民生児童委員と協力してお年寄りやハンディキャップのある方の要望を聞き、対応に当たるようだ。でも、人手が全く足りていないようなので、近所の人たちに声をかけてお手伝いを募ることにした。

#### 3. 備蓄品配布



私たちのマンションには防災井戸がある。毎分200㍓の能力があり、井戸水は10カ所の蛇口から供給できるようになっている。

ペットボトルを持っている人は井戸水を汲みに来ているようだ。何も持っていない人に備蓄してあるウォータータンクを配布するようだが、これは数に限りがあるので

できるかぎり自宅から水の汲めるものを持って来るようにと呼びかけている。マンションの防災会では食糧の備蓄はほとんどしていないと聞いた。そのために各家で粉の備蓄が呼びかけられていたのだ。粉の備蓄とは各家で小麦粉を一袋余分に買っておくように啓発していた。

朝食は買い置きのビスケットですませた。

#### 4. 炊き出し開始

ようやくお昼前に炊き出しの準備ができたようだ。(おやおや、ごはんを炊くのかと思っていたのだが、へんな機械が現れた。これは夏まつりやもちつき大会で使用している「イカ焼き機」ではないか。そうか粉の備蓄はこのためだったのか。) 簡単で待たせる時間も短く焼き上げることができる。小麦粉、だしの素、ソース、醤油、ポン酢、マヨネーズはどの家にもあるもので、安全に食べることができるのだ。そして、なんとと言ってもマンションには防災井戸の水がある。プロパンガスもある程度備蓄されているようだ。いよいよ、イカ焼き機に火が入り焼きはじめられた。面白いくらい、どんどんと焼き上がっていく。食べ始めた人たちからは笑みがこぼれている。



#### 5. 家族帰宅

夕方夫と上の子がいっしょに帰宅した。家族がそろってひと安心。マンションの前の国道も徒歩で帰宅を急ぐ人たちの姿が目立つ。マンションに立ち寄り、防災井戸の水を空になった手持ちのペットボトルに汲んでいるようだ。



#### 6. トイレ

自宅のトイレが使えるのかがどうか判らなかつたり、上層階の人は防災井戸の水を持って上がることが大変だったりと言うことで、備蓄している災害用仮設マンホール用トイレも設置された。B・D・E棟3つの自転車置き場に小さなテントで囲まれた仮設トイレが置かれ、その周りをブルーシートで囲み、プライバシーができる限り守られるように設置されている。流す水は防災井戸から運ばれているようだ。上層階のお年寄りなどには、簡易式の段ボール組み立て式トイレも必要に応じて配布されている。



今日も余震が続く中ではあるが、家族そろって就寝することができ、不安も少し減ってきた。

(原稿は東京都中央区高層住宅防災対策パンフレットを元にアレンジしています。)